

フードドライブの仕組み



フードドライブは、フードバンク発祥の地・アメリカで1960年代から盛んに行われてきました。家庭で使い切れない「もったいない」食品が、困っている人の食べる喜びと「ありがとう」につながり、分かち合うことで提供した側も貰った側も幸せになる活動です。



NPO法人 みんなで子育てドロップスの取り組み

Interview

地域の皆さん
ありがとう!



副代表の駒宮さんと代表の牧野さん

地域とつながり、協力し合うフードパントリー

昨年より恵那市でフードパントリー活動を行っている「NPO法人 みんなで子育てドロップス」代表の牧野さんと、副代表の駒宮さんにお話を伺いました。

「みんなで子育てドロップス」さんは、ファミリーサポートセンター事業の他、団体の施設にて塾や習い事に通っていない子ども達の居場所作りとして学習支援事業を行っている団体です。しかし2020年、新型コロナウイルスの感染が広がり、学習支援を休止せざるを得なくなりました。

休止により団体スタッフたちが心配したのは、学習に来ていた子どもたちの食事でした。学習支援が休止の中でも子どもたちに何かできないかと考え、補助金を受けて4月にフードパントリーの臨時配布を開始しました。最初の利用者は20家族、利用者からは「子どもの入学・卒業が重なり、大変だったところを助けていただいて嬉しい」といった感謝のメッセージが届いたそうです。11月からは正式に事業として、子育て中のひとり親世帯・生活困窮・孤立家庭を対象とした「子育てフードパントリー」を毎月行っており、現在の利用者は65家族ほどになりました。地元の農家さんから提供された野菜や、地元企業から提供された食品、

補助金で購入した食品を、利用者の世帯人数や子どもの年齢などを考慮し、無駄のないように配布しています。

「団体スタッフとのつながりで、地域の自治会長から町の方々に「家で作った野菜を少し持って行ってあげられないか」と呼び掛けていただき、たくさんの旬の野菜が集まるようになりました。米農家さんも多いので、月によっては購入しなくても配布ができるくらい集まり、助かっています。」と、駒宮さん。

牧野さんは「遠い地域に住んでいる方への支援では、学童の先生が数件分を保管し、お迎えの際に親さんに渡してもらっています。本当にいろいろな場面で地域の皆さんに助けていただいています。これからも地域とのつながりを大切にしながら、明るく笑顔で活動していきたいですね。」と話していました。

コープぎふでは、恵那中津支所に届いたドライ返品商品を無償提供しています。これからも地域の中で誰一人取り残されることなく、つながりあってイキイキと暮らせるよう、今後も「みんなで子育てドロップス」さんの取り組みを応援します。

コープぎふが行うフードロス削減の取り組み

1. 冷蔵予備品の提供



注文品をお届け用の箱にセットしている小牧要冷セットセンターでは、組合員の注文数に加え、予備品を一定数用意し商品の不具合に備えています(約200品/日)。使わずに廃棄せざるを得ないものをフードバンクぎふに提供し、食料を必要としている人への支援に活用していただいています。

2. フードドライブ

コープぎふ恵那店と多治見店でフードドライブの実験を行いました。7月の恵那店でのフードドライブには88点(19.6kg)の食品が集まりました。

次回予定 10月10日(日) 多治見店 10:00~12:00



3. フードバンクへの提供



コープぎふの配送支所には、ご注文後止むを得ない理由でキャンセルされ、引き取る商品があります。そういった商品を地域の社会福祉協議会やNPO団体へ提供し、食品を必要としている方の支援に活用していただいています。

- NPO法人みんなで子育てドロップス(恵那中津支所)
- 多治見市社会福祉協議会(多治見支所)
- 各務原市社会福祉協議会(各務原支所)
- 山県市社会福祉協議会(岐阜西支所)
- フードバンクぎふ(西濃支所)
- 関市社会福祉協議会(中濃支所)



大切な食べ物を必要としている人に届けます!



「もったいない」から

「ありがとう」へ

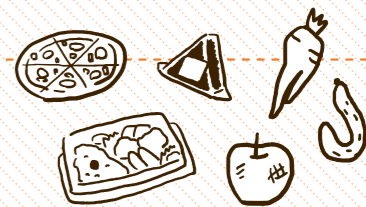


食品は、必要な分だけ買って使い切るのがベスト。でも、家庭には「使い切れないかも…」というものもあるのではないのでしょうか。今回は、このままだと捨てなければいけない食品を生かす取り組みを紹介します!



フードロスとは?

フードロス(食品ロス)とは、本来は食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。例えば、家庭での食べ残しや賞味期限切れなどによって手つかずのまま廃棄されるもの、お店での売れ残り、加工や出荷段階で傷ものや規格外品として捨てられるものなどが、フードロスになります。



日本におけるフードロスの現状

日本では、1年間に約600万トン(2018年度推計値)もの、まだ食べられる食品が捨てられています。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量(2019年で年間約420万トン)の1.4倍に相当します。また国民1人当たりで換算すると、お茶碗1杯分のご飯が毎日捨てられていることになります。フードロスは食べ物が無駄になるだけでなく、焼却によって環境にも負荷を与える大きな課題。そのため、SDGsには2030年度までにフードロス半減という目標が掲げられています。



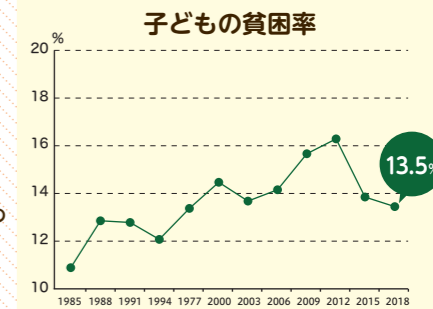
日本の貧困に苦しむ家庭の現状

厚生労働省の調査によると、約7人に1人が貧困状態にあり、その中には日々の食事にも困っている家庭もあります。こうした家庭に食品を無償で提供してくらしを支える「フードバンク・フードドライブ・フードパントリー」という取り組みがあります。

2018年の日本の子どもの貧困率 13.5%



17歳以下の子どもたちの7人に1人(約260万人)が貧困状態



出典：2019年国民生活基礎調査の概況/厚生労働省

フードバンク・フードドライブ・フードパントリーとは?

フードバンク



品質に問題がないのに、様々な理由で処分されてしまう食品を引き取り、福祉施設などに無料で提供する活動。

フードドライブ



家庭で使い切れない未使用食品を持ち寄り、地域の福祉施設や団体、フードバンクなどに寄付する活動。

フードパントリー



生活困窮者など、生活に困っている人々に食品を無料で配布する活動。フードバンクやフードドライブで集まった食品なども活用。